

授業記録簿

前後期別	(前期・後期 合同)	作成者	(15)期生	氏名 荻谷 逸雄
講義名	新型コロナ騒動 これからの社会のあり方			
講義者	保田 茂 学長			
講義日	R 2 年 7 月 1 日	場 所	県民会館 (901 号室)	
講義概要	1 前回授業復習 温度と湿度とウィルス感染の関係性 2 新型コロナ騒動 これからの社会のあり方 1) 東京都心リスク 2) 失地挽回 3) テレワーク 4) 資本主義の終焉			
講義内容	1 前回授業復習 絶対湿度 (g / m ³ 1 m ³ 当たりの水分量) 相対湿度 (%) 絶対湿度と感染力の関係性 7 g 以下 ◎、 7 g ~ 11 g ○、 11 g ~ 17 g △、 17 g 以上 × 梅雨の時期 : 17 g 以上 = ウィルスの感染力低い 免疫力 熱いと免疫力高まる (37℃~38℃)。体温下がると免疫力も下がる タンパク質 : 熱に弱い・・・ウィルスもタンパク質→体温上げてウィルス除去 ウィルス : 生きた細胞の中でしか生きられない 2 新型コロナ騒動 これからの社会のあり方 1) 東京都心リスク コロナ:人口密度の高いところで発生⇒大発生させないためには一極集中避ける 社会構造 高度経済成長期 工場・会社＝消費地に立地→大都市化→将来スラム化も 農村の若者 大都市へ就職→農村の過疎化→将来消滅も 大都市がスラム化する前に農村(郊外)に移住＝農村(郊外)の活性化 2) 失地挽回 コロナの影響 : 第3次産業(サービス業)大 サービス業 : 大都市中心から分散型に・・・フードトラック(現代版屋台)登場 →過密化防ぐ 3) テレワーク・・・新しく始まった勤務形態(在宅勤務) 効果 ①人手不足の緩和・・・女性の離職低下 ②生産性の向上・・・女性の人的資本蓄積促進 ③経済活動の分散化・・・郊外・地方に移転⇒地方経済活性化 若い人中心に CPU を使用したテレワーク可能に→分散型コミュニケーション 大都市から農村に→農業をしながらテレワーク＝農業が副業に←期待 農村に移住し、生活の多様性を楽しむ 4) 資本主義の終焉 コロナ禍⇒貧しい人、切り捨て 米国 : 「もはや国家は国民の生命・財産を守ってくれない」と反旗 日本 : 「国家は国民を守ってくれない」という不満 ⇒テレワークがままならないサービス業従事者が感染リスクにさらされたまま 地域組織の力が発揮できるような、分散型社会になる必要がある。			
参考事項	講義資料 週刊エコノミスト写し			

